



9月18日町内クリーン作戦

どこまでも限りなく

公文式指導者 伴 節巳

公文式の指導者として十六年間に過ぎ去った。縁あってこの地に教室を開設することになり、地域の子供達と交流を深めるに至った。

ご存じとは思いますが、公文式とは会長が公文なので公文式である。父親が我が子の為に財産を残すより、確かな学力を残してやりたいという親心から生まれた学習法である。

開設第一期生のH君は、高校二年生まで公文式を学び一宮高校から自治医大に進学、現在岡山日本赤十字病院に医者として勤務、人々の為に忙しい毎日を送っている。

スペースシャトルが飛び、科学技術がここまで発達した時代に、学校嫌い、学業不振の子がどんどん増える教育界で、公文式が貢献する力は多大なものがある。二年間登校拒否を続けていた子もこの春から元氣よく通学を始めた。公文の教室だけは休まなかった。幼児さんでなかなか発語のなかった子が、今では、すらすら本が読めるようになった。

高校三年生のN君は、十二年間私つき合っている。理系で数学は誰にも負けないという自信を持っている。「やってみなければわからない」的なものかも知れないが、少なくとも巷にあふれる教育産業とは比べるに値しない。高校生達、大学に進学した子供達が「公文をやってよかった」と言ってくれ、先生もっともっと多くの子供達に公文式を教えたとエールを送ってくれる。

日本人初の女性飛行士向井千秋さんの言葉が印象に残っている。目標を持って努力すれば、いくら他の人より自分の能力が低くても、必ずや報われる。今時の子供達に一番大切な心ではないだろうか。公文式理念である。その子の持っている能力、可能性を最大限に伸ばし社会に貢献する人材の育成、このことを日々子供達に表現できるよう指導に励んでいる。どこまでもどこまでも限りなく。

わが郷土を語る(その22)

中尾 佐之吉

備前法華を今地区に見る

前回、岡山市で有名な「蓮昌寺」のことを書いた。そして、この蓮昌寺は大覚大僧正の創建になることも述べた。この大覚大僧正は京都で妙顕寺を開かれた日像上人の弟子と言われているが、後醍醐天皇が隠岐へご遷幸された頃、元弘3年(1333)岡山の地に来られ、日蓮宗を勢力的に布教された。当時、備前の守護職(後の金川城主)であつた松田氏の強大な援助も得て、後年の「備前法華」と言われる基をきずかれたのである。

「妹尾千軒、皆法華」と言うことばがあるが、この地区(旧今村)でも、周辺地区を含めて当時の住民は皆日蓮宗の信者になったと思われる。いまも、この地区へ古くからおられる家は、殆ど日蓮宗である。そして、どこの集落(昔の「村」)にも、その一画(昔はおおむね墓地の近く)に「南無妙法蓮華經」と刻まれた題目石を建立し、日蓮上人をはじめ日朗様・日像様・大覚大僧正の石塔がたてられている。(末尾の写真参照)当時は、天災地変や疫病に悩まされていたので、家内安全・五穀豊穰を願うのこともあったと思われる。(注1)また、今地区の古い村々には、つきに見られるように、日蓮宗の寺院が数多く建てられていた。

古い村名	寺院名	古い村名	寺院名
上中野村	満福寺	田中村	妙蔵寺
下中野村	南光寺	〃	長学坊
木村	真福寺	西長瀬村	永久寺
今村	相雲寺	辰巳村	昌林寺
中仙道村	宝積寺	〃	妙光寺

しかし、備前藩主でかつて名君と言われていた池田光政の命令で、寛文6年(1666)全て取り潰されてしまったといわれる。

光政は、孔子を崇拜し儒教を信仰していたためか、仏教ざらいで、とくに法華宗(日蓮宗)は、当局の言うことをきかない独善的な宗派であるときめつけ、なかでも不受不施派は、徹底的な弾圧を受けたのである。それでも、この派はあらゆる迫害に堪え、表向きはともかく、内々での不受不施思想を堅持していたことはよく知られているとおりである。



世が変わり明治になると、信仰の自由が認められた。日蓮宗不受不施派も為政者の200年にわたる抑圧から解放されるのである。この地方に多かった不受不施信仰の方々のよこごびはいかばかりであつたろうか。

時代は下って戦後になると、農業技術の進歩普及により、五穀ばかりでなく、いろいろの作物が大産生産され食生活も豊かになる。また、医学と医療施設や制度の改善により、かつて苦しめられた伝染性疾患は大方克服されるようになると、往時のように、作物の出来不出来とか、健康のことなど何でも神仏の加護に依存する風潮が薄れ、信仰は専ら先祖供養に向かうことになったように思える。そして、昔、村人たちが朝に夕にお祖師様にお参りし祈っていた頃と比べると、最近はこのことも疎遠になっているようだ。

信仰心の薄い私に、ものを言う資格はないのだが、ある人が云っているように「私たちの最後の運命は、どうも人間の手にないらしいという感覚をもつことが、信仰をもつことなのである。」とすれば、何もかも自分の思うとおりにできると言う自信過剰者は別として、われわれの命運を司る神仏を簡単に見捨てることはできないはずであると申しあげねばならない。

注1 今地区における過去の自然災害発生数

年代	風水害	大地震	凶作飢饉	かんばつ(旱魃)
1600年代	10		1	
1700年代	10	2		
1800年代	15	2	1	2
1900年代	4	1		1
合計	39	5	2	3

(「今村史」による。ただし1600年以前のこと不明、また災害程度も不明)

◇ 10月メモ ◇

- 10月1日(土) ごみ袋透明化実施
- 10月2日(日) 御南小学校運動会
- 10月9日(日) 福祉センター運動会
- 10月15日(土) ごみ五種分別説明会 新公会堂説明会
- 10月22~23日(土・日) 白髭宮秋祭り

あとがき

彼岸を過ぎすっかり秋らしくなった。今までの猛暑が嘘のようだ。それにしても、暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったものだと思う。お彼岸を迎えるたびにこの言葉が、その年にふさわしい生きた言葉となってよみがえる。今年の暑さが格別だっただけにひとしおその感が深い。

今町内会では公会堂の建設と町内の法人化、ごみの5種分別に取り組んでいる。町内の充実、発展のためにご協力の程よろしく。

原・和気